



なんそうさと み はっけんでん 第9巻 卷39  
南総里見八犬伝

きよくてい ばきん  
曲亭馬琴自筆稿本

天保11年頃成立 1冊  
縦24.6cm 横17.4cm

十八世紀中頃、江戸に文学の中心が移り、京都・大坂に起こった読本も江戸の地で出版される事となった。

曲亭馬琴（一七六七—一八四八）は、江戸に生まれ、寛政三年の処女作『尽用而二分狂言』から嘉永元年八十二歳で没するまでの五十八年間に、読本、草双紙等、著作総数三百余篇・千巻を超える作品を残した。作品には、中国古典小説『水滸伝』や『三国志』に倣い、勧善懲悪・因果応報といった命題が貫かれ、質・量ともに江戸文学を代表する作家である。

『南総里見八犬伝』は下総里

見家の勃興を中心に、八犬士の活躍を描いた長編伝奇小説。

馬琴はこの全九輯九十六巻百八十回百六冊の完成に、文化十一年から天保十三年までの二十八年の歳月を費やした。「犬」の字を姓にもつ八人の若者がそれぞれの運命に立ち向かい、仲間と出会い、互いに助け合い、敵を討つ姿は人々を引きつける。江戸時代のみならず、現代にまで読み続けられ、本作を翻案とする小説、映画、テレビドラマ、劇画等も多く作られている。掲出書は第九輯巻三十九の自筆原稿。馬琴は六十七歳の時に右眼を失明し、この稿本



を執筆した七十四歳の頃には、左眼もほとんど見えない状態となっており、左手で罫線をたどり、筆を持つ右手をそれに添えて書いたという。にじり書きの乱れた文字には、この作品を完成させようとする彼の気迫を感じる。

右カット図は八犬伝最終回の口絵。天保十二年、歌川国貞が描いた馬琴七十五歳時の肖像である。

（天理図書館 西田裕美）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
 3月18日、27日～31日は閉館。  
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）